

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュ新生			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 17日		～	2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数)	23人
○従業者評価実施期間	2025年 12月 21日		～	2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・5領域支援に即した、専門的な視点を持って発達段階を見ることができる。 ・子ども達の自主性を育み、挑戦して「できた経験」「失敗して悔しかった経験」両方を体験していけるような支援を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体の動きや求めていることから発達段階を見極め、必要な支援の提供ができる。 ・静の動きが好きな子どもたちには、ひらがなカルタやパズル、絵カードなどによる指示理解、順番を守る遊びを通して、認知・行動面からのアプローチができるように支援をしている。 ・子ども達が自分の意見を言える時間を設けている。 ・自分で考えた遊びを実践して達成感を味わったり、失敗したりうまくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの意見を尊重しながら、新しい遊びの提案が常にできるようにしていき興味や遊びの幅を広げて、バランス良く支援をしていけるようにする。 ・専門的視点を持って、必要な動きや課題を見つけ出し、ご自宅での支援に繋げられるような提案をしていくことができるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能事業所で年齢の幅が広く、様々なライフステージに合わせた支援を想像しやすい。 ・子ども同士縦の関りが生まれお互い良い相乗効果が生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢によって必要な支援を想定して提供したり、学校や就労に向けて保護者様から情報提供をしていただく機会を意識的に作っている。 ・年上の子が見本になることで頼られる経験を自信に繋げることができたり、年下の子にとって将来を考えるきっかけづくりを心がけている。また、様々な年齢のお子様との関わりを通して、相手の立場に立って考える機会を作り、他者へ思いやりを持って関わられるようにしている。そのような関わりを通して社会性やSSTを身に着けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同一法人内でも情報交換をしていくことでよりよい支援ができるようにする。 ・合同イベントなどを通して、様々な人と関わる経験が積めるようにする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングや月一回のランチミーティング・法人内の別事業所との定例会議など、支援内容や制度について情報共有や相談できる場所がある。 ・毎月様々な研修を行い職員のスキル向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月最新の研修を受けることで常に新しい情報で支援に向かうことができる。 ・スタッフ自身の行動の振り返りを行うことができる。 ・職員は必要な研修を必ず受講している。 ・話し合いの中で支援の共有をしていき、同じ方向を向いて子どもに向き合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修や連絡会へ積極的に参加していくことで、常に情報をアップデートしながら、他事業所との交流も図りいろいろな視点を持った支援の情報を入手し、事業所に持ち帰ることにより良い支援ができるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な特性や発達段階のお子様と一緒に遊びを行う為、遊びの制限が生まれることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの部屋で遊びを行う際に集団遊びが難しい子どもの居場所が確保しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間を仕切ったり、個別で遊べるスペースをわかりやすく確保していくことで、様々な特性のお子様に合わせた支援ができるよう工夫していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と交流する機会が少なく、事業所の周知があまりできていないように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントへの参加や避難訓練のお知らせなどが不十分な点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントへの参加を積極的に行い、事業所について知ってもらう機会を設ける。 ・避難訓練などのお知らせを強化することで、災害時にお互い助けてあえる関係性を築いていく。
3			